
first contact/world break/UNICORN

神青雪由

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

first contact/world break/UNI
CORN

【Nコード】

N1149Z

【作者名】

神青雪由

【あらすじ】

主の描写力の向上の為の小説。

今回はガチ戦闘物語。主に政治や戦争が殆どです。

最も完全体に近い一夏くんです。篠乃之束と織斑千冬とこの世界に絶望し、失望し、この世界を破壊して、新たな世界を構築する、みたいな感じですか。

様に言えば、刹那 + 明智久司朗 + ICHIKIKA 今作一夏。

第一次UC戦争（前書き）

最早、再構築といた方が早い気がする。

第一次UC戦争

悪い夢を見ているみたいだ。

アメリカ海軍アポロン艦隊第十六海洋部隊・リアグリス洋巡洋艦艦長、ジョーンズ・リカード左官は無意識に考えた。

元々、我々アメリカは太平洋上で中国・EU諸国連合・ロシアと戦闘を行っていた。

昨日に中国とロシアがアメリカとEU諸国連合に宣戦布告を宣言した。

それに対して勿論、アメリカとEU諸国連合は両国に抗議声明を出したが、

中国とロシアはそれを無視して進軍し、現在に至る。

最初は両国がミサイル及びISによる武力行為での威嚇。

それが運悪くEU諸国連合とアメリカの艦隊に直撃してしまったのだ。

それから乱戦に至り、敵味方の区別が付かない状態になっていた。

その後、我々が撤退行動をしようとした時、それは現れた。

空を紅く染め、上空から純白のISが音速を越えたspeedで急降下していた。

中国がロシアのISか？とIFFで識別しようもどうやら所属不明機のような。

「拡大しろ」

ジョーンズが命令すると空中投影ディスプレイに所属不明機が映る。

あれは・・・一角獣だ。希望の象徴、可能性の獣と謂われる聖なる獣だ。

一角獣の頭に全身を包む純白のフルスキン。

ジョーンズはなぜか言い様のない不安に包まれた。

その刹那、その所属不明機から全周波数で宣言した。

「現在より、EU諸国連合及びアメリカ・中国・ロシアの戦闘に介入する。大人しく戦闘を中止し、現海域から離脱しなければ武力で強制制圧を行う」

まるで何処かの中立部隊の様な声明を行い、威嚇射撃だと思われる砲撃を行った。

当然、四カ国ともその気はないらしく、戦闘機やISが所属不明機に飛翔する。

「・・・戦闘を開始する」

その瞬間に、

その所属不明機は消えた。

否、正確には消えたように見えただけでその手首から生えるBEAMSSwordで戦闘機を破壊し、超高速で移動しただけなのだ。

そして、銃？と思われる物を顕現化させて下に向けて三発ほど引き金を引いた。

それを下から見ていたジョーンズは戦慄した。

なんと銃から放たれた赤い閃光は下にいた十何機のISを巻き込んで、中国とロシアとアメリカの戦艦をたった三発のビーム攻撃で墜としたのだ。

その暴虐の赤い閃光はそれだけ破壊したのに関わらず、海水下に潜水している潜水艦も撃ち抜いたのだ。

水中で爆発的な化学反応で一寸した水素爆発が起き、海面から巨大な水柱が幾度となく発生した。

それで終わる筈もなく、所属不明機は近くにいたISをBEAMSSwordで破壊し、ビームマグナムから放たれる赤い閃光でISを吹き払い、戦闘機をドックファイト並のすれ違いで破壊する、という非常識極まりない戦いだっただ。

長い戦いの中で敵の危険を理解しているジョーンズは次々に破壊されていく四カ国の軍隊を見て理解した。

あれは、我々では何があっても勝てない。と

あれは、白騎士に匹敵する化け物だと。と

あれは、我々を完全に完膚なきまでに破壊する。と

それを認識したジョーンズは艦船員に対して命令を下す。

「緊急命令だ。機関部及び指令部・管制室を除く全ての船員は速やかにこの戦艦より脱出せよ！」

慌ただしく船員達は緊急用ボートを用意し、脱出準備をする。

・・・これで何とか私が時間稼ぎをすれば脱出要員は脱出出来るだろう。

その、刹那、

世界が白く染まり、

ズウウウウウン！！！！！！

ドカアアアアアアアン！！！！

まるで直下型地震が発生したかのような揺れが空間を揺らした。

「な、なにが起きた！」

ジョーンズは混乱した。ふと、空中投影ディスプレイを見て、目を見開いた。

あの所属不明機の下にある戦艦や戦闘機・ISが煙を上げなら墜ち

私達は、今、絶対的な滅びに曝されていると。

所属不明機はまるで流星の様に此方に飛翔し、ビームマグナムを此方にむけ、

容赦なくトリガーを引いた。

赤い閃光が機関部、管制塔、中間に直撃した。

白く、染まり逝く意識の中で、ふと海面を見る。

数十隻のボートが浮かんでいた。

ああ・・・彼等は無事に脱出出来たようだな・・・

その瞬間に完全に意識は消滅し、

この海からリアグリス巡洋艦は爆破し、消滅した。

その後は最早、一方的な戦いだった。

赤い閃光がISを破壊し、戦艦を撃ち抜き、バルカンで戦闘機を撃墜したり、BEAMSSwordでミサイルを破壊したり、と

戦闘開始後、たった20分で空中戦艦48艦、海上戦艦58艦、潜水艦24艦、戦闘機194機、ミサイル総数1241発を海の藻屑にへと変えたのだった・・・

この戦いから世界は緩やかに破壊され、本来の結末を迎える・・・

最早、狂い始めた歯車はもう、誰にも止めることは不可能。

いや、本来、在るべき世界に戻っていくのかもしれない・・・

我は印す、この世の真理を。かの星の翡翠に狂気と狂気的愛を籠めて我は印す。

封はアヌビスより来たりし、地の底に。

砕かれしとき、法を示し、呪いを受けるは、ノアの方舟にのりし二人の男女。

故に我は示し、警告する。その呪いを受けし者は 世界を破壊し、無垢なる存在へと還す。

Verum, sine mendacio, certum,
et verissimum:

Quod est inferius est sicut quod est superius,
quod est inferius,
et quod est superius est sicut quod est inferius,

ad perpetranda miracula rei unius.

Et sicut res omnes fuerunt ab uno, meditatione unius,
sic omnes natae ab hac una re, adaptatione.

H a e c e s t t o t i u s f o r t i t u d i n i s f

t a s .

I d e o f u g i e t a t e o m n i s o b s c u r i

d i .

S i c h a b e b i s g l o r i a m t o t i u s m u n

n f e r i o r u m .

e t r e c i p i t v i m s u p e r i o r u m e t i

e r u m q u e d e s c e n d i t i n t e r r a m ,

A s c e n d i t a t e r r a i n c o e l u m , i t

c u m i n g g e n i o .

i l e a b p i s s o , s u a v i t e r , m a g n o

S e p a r a b i s t e r r a m a b i g n e , s u b t

r s a f u e r i t i n t e r r a m .

V i r t u s e i u s i n t e g r a e s t , s i v e

d i e s t h i c .

P a t e r o m n i s t e l e s m i t o t i u s m u n

e s u o ; n u t r i x e i u s t e r r a e s t .

P o r t a v i t i l l u d v e n t u s i n v e n t r

e s t l u n a .

P a t e r e i u s e s t s o l ; m a t e r e i u s

ratiōne solis .
Completum est quod dixi de ope

et totius mundi .
habens tres partes philosophia

megistus ,
Itaque vocatus sum Hermes Tris

les ,
Hinc querunt adaptationes mirabi

Sic mundus creatus est .

omneque solidam penetrabit .

quia vincet omnem rem subtilem ,

ortitudo fortis ,

所属不明機が四カ国の軍隊を全滅させた上にまるで、霧の様に消えてしまった。

人々はこれを白騎士の再来や平和を示す者とか色々噂は絶えない。しかし、一般人が考えている以上に事態は深刻なのだ。

この事態に対してIS国際委員会に対して篠乃之束は「あのISは私が作ったものじゃないよ」と宣言し、それを公式に発表した。

また、この事件名を「一角獣事件」と名付け、所属不明機を「UNICORN」と命名した。

それにより、世界中の軍や研究機関は血眼でUNICORNを捜索している。

因みに、その白騎士事件の当事者はと言うと……

IS学園で教師をしている。と言っても、原作程の覇気はない。

その理由は……10年前に最愛の弟の織斑一夏を失ったのだ。

第二回モンド・グロツソの大会決勝時に、一夏が何者か誘拐されて監禁されている。と言う情報がドイツ軍より入ったのだ。

その報告を聞いた瞬間に試合会場のenergyfieldを破壊

し、ドイツ軍に教えられた場所に急行した。

しかし、

世界は、神は、運命は、時間は

残酷だった。

先ず目に入ったのは赤い床、赤く染められた壁。

そして

最愛の弟だった物

胸に穴が穿たれていた。明らかにあれは即死物だ。

本来、白い筈の肌は青ざめ、服は赤く染まり、床には命の源とも言える赤い液体がまるで水溜まりの様に広がっている。

その光景に織斑千冬は茫然自失するしか無かった。

私は……

こんな世界は

否定する
!!!!!!

頭の中では否定すると言う概念が支配し、その刹那、織斑千冬の意

識はブラックアウトした。

その後、篠乃之家の人や同僚の力により何とか復帰したが、今現在でさえも千冬はこの世界を否定している。

篠乃之箒

大天災・篠乃之束の妹で、世界に対して激しい憎悪と憎しみと狂った愛を懐く「異端者」。

その考えは織斑一夏と一致するものがあると言える。

それは、狂気の愛情にして極めて無垢で純粋な愛情。

愛して、愛して、愛し尽した結果が今の「篠乃之箒」である。

自らの肉親が作ったこの壊れた世界に存在する二人目の「異端者」。

一夏と基本的に同じ精神なのだ。

壊れてしまったのなら、いつそのこと、壊して壊して壊し
尽くして、またゼロから始めればいいと。

それが故に二人は引き合う。

まるで磁石が鉄を引き付けるように……

罪と罰

それは、

鬼神だった。

アメリカ陸軍アルベルト・ブラック准将は思った。

かつて、ベルカとウステイオが世界を巻き込んで戦争を始めた。

通称「ベルカ戦争」。

その時、B7Rで脅威的なパイロットがいた。

ウステイオ空軍第6航空師団第66飛行隊ガルムのパイロット、

TACnameはcipher。

別名、「円卓の鬼神」

ベルカのエース達と国境なき世界のエース達、そして相棒の「片羽の妖精」を撃墜した事で有名である。

その圧倒的迄の強さは連邦軍の士気を向上させ、敵軍の士気を容易く破壊したという。

その戦争の時にベルカ人は7つの核を爆破させ、「ここからは我々の聖域である」と言うメッセージを世界に示した。

・・・それにより世界は軍縮に力を入れたがインフイニット・ストラトスと言う機動兵器によりバランスが崩れてしまったが。

しかし、今、私の目の前にあるのは一方的な破壊と言う名の蹂躪。

前日、我が祖国アメリカとEU諸国連邦とロシア・中華人民共和国との四つどもえの戦闘があった。

その時にとある一機のISにより四カ国の軍隊を壊滅させたのだ。

傍目は神話に出てくる獣、希望の象徴、可能性の獣。

それは一角獣。

所属国、機体名、登場者名、兵器名全てが不明なのだ。

まだ記憶に新しい「白騎士事件」を彷彿とさせる事件だ。

しかも、今現在、我が基地を襲撃しているのはその所属不明機、通称「UNICORN」。

何故だ？なぜ我々の基地が襲撃されるのだ？。

まさか無差別襲撃か？、いや、だったら他の国の基地も攻撃している筈だ。

「司令！」

部下のレーゲ・ウツソ少尉が飛び込んでくる。

「どうしたんだ？ウツソ少尉」

ウツソ少尉は慌てた顔で、

「IS部隊が・・・全滅しました。」

！？

思わずブラックは叫んだ

「IS部隊が全滅だと！？応援部隊はどうした！」

我が基地には第二世代ISが8機、第三世代が4機がいるのだぞと思っただがウツソ少尉の言葉によりその思考が凍りついた。

「しゅ、所属不明機の仲間と思われる紅いISに応援部隊はぜ、全滅しました。そして、その応援部隊の所属基地はその紅いISにより壊滅しました・・・」

ウツソ少尉の言葉に耳を疑った。

「なん・・・だと・・・」

ば、バカな・・・

応援部隊が全滅した上にその応援部隊が所属している基地が壊滅だと！？

なんなんだ！一体あれは・・・！

その刹那、全身に冷水を掛けられた様な悪寒が走った。

慌てて、二人は身を伏せた、その瞬間に自分達がいた場所が吹き飛んだ。

ブラックが顔を上げ、そこにいたのは、

紅いIS。

勿論、女性だ。胸が結構大きく張りがあることがスーツの上からでも分かる。美しく艶のある長い黒髪をポニーテールにしている。

顔は紅いバイザーで隠しており、伺えないが恐らく十代だろう。

しかし、その体から放たれている殺気は本物だ。しかも、その殺気は幾つもの戦場を駆けている本物の‘殺し屋’が放てる殺気だ。

並の人間ならこの殺気を浴びただけでも気を失うだろう。

私は賤しく長年軍人をしてる為にこのレベルの殺し屋とは幾度と無く戦ってきたが、ここまで殺気を放てる人間がいるだろう

ウツソ少尉はあの謎の女性から放たれる殺気をまともにも位、失禁した上に気絶している。

私も危うく意識を持って逝かれそうになった。

ふと、謎の女性を見る。

すると、その女性は、

嗤う。

その嗤笑を見た瞬間に刀が走り、ブラックの意識と共に基地は吹き飛んだ。

それを見て、ニヤリと満足そうに笑い蒼穹のカナタへ飛びさった。

共に白いIS、UNICORNと共に寄り添いながら、まるで番の様に・・・

IS国際委員会は混乱に満ちていた。

何の関係もないアメリカの基地ニカ所がUNICORNの仲間と思われる所属不明機により壊滅的な損害を受けて再起不能になった。

と言う報告がアメリカ政府から入った。

IS国際委員会はこれを受け、IS国際委員会に加盟している国全てに非常事態宣言を発表。また、今回新たに現れた所属不明機を「red」と命名した。

罪と罰（後書き）

世界ケータイ万能過ぎて困る

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1149z/>

first contact/world break/UNICORN

2011年12月7日02時55分発行